

2月 未来まちづくり塾～ぷろぐれす～ 開催報告

開催日時：

2014年2月14日（金）19:00～21:00

開催場所：

淀川区役所5階会議室

参加者数：

8地活協12名

進行：

淀川区まちづくりセンター支部 浜辺アドバイザー

全体の流れ：

19:00 趣旨説明・参加者自己紹介

19:05 コミュニケーションワーク

- ・私あなた
- ・拍手回し
- ・しりとり
- ・ゾンビ
- ・マシン

19:50 まちづくりラウンドテーブル

話し合いたいテーマを共有

「地活協組織」「防災」「人材」をテーマに全体で意見交換

21:00 閉会

内容：

全4回開催した未来まちづくり塾以降も、地域を越えた実務者間のつながりの場を継続していくことを目的に「ぷろぐれす¹」を開催。未来まちづくり塾に参加された方の紹介で、新たに3名の方にもご参加いただき、これからの地域活動協議会のあり方や淀川区のまちづくりについて意見交換と親睦を深めた。

¹ ぷろぐれす：ある方向に向かって絶え間なく進んでいくこと。進歩・発展を意味する。

・コミュニケーションワーク

5種類のゲームを通じて、ラウンドテーブルで自由な意見を出してもらうための場づくりを行った。

最初の「私あなた」は、第3回「コミュニケーション・チームビルディング」でも体験いただいた内容。全員で一つの円になり、「私」と言って自らを指さし、他者と目を合わせて「あなた」と振る内容で、隣の人に振るときは視線が合っていないなくても伝わるが、対称方向の人には視線を合わせ、はっきり指さないと伝わらない。

拍手の動きと音だけで相手に伝える「拍手回し」と合わせて、普段の会議の時にも明確にあなたと伝えることが大切ということ、浜辺アドバイザーは参加者に伝えた。

続いて行った「しりとり」は、2人1組になって目を合わせ、手を叩いてリズムを刻みながら、言葉をつなげていくゲームであった。

「人間が同時に複数のことをするのは限界がある。その限界に挑戦していただきたい」と浜辺アドバイザー。相手と視線を合わせ続けるので、思わず「愛が生まれそうやなあ」とつぶやく方もおられ、参加者からは笑みがこぼれた。

その後に行った「ゾンビ」は、中央にいるゾンビ役の人が両手を前に伸ばし、折り曲げた手でゆっくりとターゲットに近づき、ゾンビに触れられたターゲットが次のゾンビとして交代するゲーム。

ターゲットはゾンビが近づいてきたら誰かに助けを求めることができ、助けを求めたい相手を静かにじっと見つめる。見つめられた相手はターゲットの名前を呼ぶことで助けることができ、ゾンビは助けた相手を新たなターゲットとして近寄っていく内容であった。

名前を呼ぶことができるのは「助けを求められた人」だけであるため、何事もなく進めば静かなゲームとなることが予想されたが、助けてもらいたい人の名前を叫ぶ方、助ける相手の名前を言い間違える方が続出し、会場内は笑いに包まれた。

最後に行った「マシン」は、「もちつき機」と「たこやき機」を題材に、参加者が機械の動きを身体で表現し、相手の動きを見てその続きの動きを順番に行うことで、チームで協力して一つの工程を完成させていくゲーム。

ゲームを進める中で、最後に順番が回ってきた人が、残っている工程を全て引き受けなくてはならない状況が発生。浜辺アドバイザーは「普段の地域活動でも役割分担が1人に集中することがあり、みんなで一つの作業を割ったらどのくらいの工程が必要か、話し合うことが大切」とまとめた。

・まちづくりラウンドテーブル

「地活協って何？」をテーマに、まずは参加者が全体で聞きたいことをポストイットに記入し、関連する内容のものをまとめて10のカテゴリーに分類。

- ①地活協の組織（振興と社協）
- ②町会加入
- ③補助金
- ④人材（コアメンバー）の確保
- ⑤地域活動へ参加する若い人
- ⑥広報活動
- ⑦防災訓練
- ⑧新しい地域課題
- ⑨従来 of 活動の見直し
- ⑩事業目的

「①地活協の組織」、「⑦防災訓練」、「④人材（コアメンバー）の確保」のテーマを中心に全体で意見交換を行った。

①地活協の組織については、

「チーム淀川として、地域の境を越えて淀川区全体でまちづくりができれば」

「まずは人間関係を大事にしているので、地域の社協と振興の関係は良好」

「地域でどれだけのお金が必要か試算して、町会が分担金を支払うことで地活協の自主財源を確保している」などの意見を共有した。

⑦防災訓練については小学校の土曜日授業を活用し、企業との協働で避難所開設訓練を行った地域より報告があった。

現在、年3回行われている土曜日授業は来年度から年6回に増加するので、参加者らは地域行事を一緒に行いたいという学校のニーズも増えるとの見方を共有した。

④人材（コアメンバー）の確保については、ネイバーフッドマッチングファンドを活用して「ふれあいもちつき大会」を開催した地域の事例が紹介され、当初はボランティアが13人しか集まらなかったが、小学校の参観日に広報したことで、約120人のボランティアが集まったとの報告があった。また、地域で行事を行う際に、必要に応じて道具の貸し借りをしているとの情報が複数の地域から寄せられ、全体で共有した。

終了後のアンケートでは「普段は聞けない話を聞くことができた」「他の地域のことがなんとなくわかった」などの感想をいただいた。

講座の様子：

